

岩瀬池 (いわせいけ)

位置図



諸元

貯水量	1,016	千m ³
満水面積	23.5	ha
受益面積	249.0	ha
堤高	17.3	m
堤長	173.9	m

岩瀬池は三豊市高瀬町上麻にある県下屈指の大池です。平安時代、高瀬町には勝間次郎と呼ばれる満濃太郎(満濃池)に次ぐ県内でも2番目に大きいため池がありました。しかし、あいつぐ決壊により、文明二年(1470年)に廃池となったため、高瀬町は度重なる干ばつに悩まされていました。そこで、地元の郷士・武田五兵衛は困窮した百姓を救うため、勝間次郎に代わるため池を築こうとしました。それが、岩瀬池です。しかし、時に元亀二年(1571年)、戦国時代の真っ只中であったため、五兵衛自身も各地を転戦し、工事は思うように進みませんでした。また、工事中も魔性により災難が続出したと言われていました。(その後、魔性は改心し、池の守り神になったという伝説があります)そして、騒乱が収まった文禄元年(1592年)、ようやく岩瀬池築造の工事が竣工しました。五兵衛が築造を思い立ってから20年余の歳月が流れていました。

さらに、岩瀬池を現在の形にしたのが、讃岐の水利の恩人と言われる西嶋八兵衛です。寛永七年(1630年)、八兵衛は岩瀬池のかさ上げを行うとともに、高瀬川本流の水を岩瀬池へ導水することにより、安定した水量を確保することに成功しました。

近年では、昭和8年に樋管工事を、昭和17年に約1mのかさ上げ工事を行いました。また、昭和56年に香川用水の調整池となり、平成6年の大干ばつにも耐えることができました。さらに、平成14年度～17年度に国営総合農地防災事業により堤体を改修しています。

武田五兵衛が苦心の末築造し、天下の名勝箱根の芦ノ湖に比肩すると称えられた岩瀬池は、400年以上経った今でも三豊平野を潤しています。

(参考文献 さぬき高瀬のため池、讃岐のため池誌、さぬき【水の歴史考】)



岩瀬池上空写真



岩瀬池風景写真